

## 第5章 考察及び今後の課題

研究の初年度の取り組みであるため、小学部テーマの決定と研究の構想が形となって出来上がるまでに相当の日数をかけた。また、実態の把握が中心となったが、そのために教室内の共通理解を深めることに役立った。今後は、実践の積み上げと指導法のありかたが問われると思う。

例えば、からだの輪郭表、リズムサーキットの評価表等、取り組んでいくなかで不十分さを克服（加除修正）し、より確かなものにしていくことである。実態把握についても、全体と個人の関係をしっかりみつめ、指導内容を決定していかなければならない。また、指導によって、経験を積むことによって児童は変容しつつある。この変化をもっと確かな目でとらえていくことも大切である。

児童の実態にあった教材教具作りも含めて、より効果のあがる教材教具の活用等実践には欠かせない課題である。

ムーブメント教育の理論を参考にして研究を進めているものの、尚一層の研究をし、生活単元学習の中でどこに、どのように生かしていくのがよいか事例を通して話し合い高めていかなければならない。

それがこの障害児たちへのよりよい指導法となってくるであろうと次年度の実践に期待をつないでいるところである。

### <参考文献>

- ・ムーブメント教育の実践 小林芳文「たけのこ教室」のスタッフ 学習研究社  
(1)・(2) ※注1で引用
- ・障害児の感覚運動指導 坂本龍生編 学苑社
- ・ムーブメント教育 フロステッグ著 日本文化科学社
- ・障害児のムーブメント教育 小林芳文著 日本文化科学社
- ・MEPA実施の手引 小林芳文 日本文化科学社
- ・ムーブメント教育MGLプログラム(教師用ガイド) 茂木・小林訳 日本文化科学社
- ・子どもの発達と診断(Ⅰ～Ⅳ) 田中昌人・田中杉恵著 大月書店
- ・さくら・さくらんぼのリズムあそび 斉藤公子著 群羊社
- ・さくら・さくらんぼのリズムとうた 斉藤公子著 群羊社
- ・幼児の体力づくり 水谷英三・水谷美知子著 ひかりのくに
- ・ちえ遅れの子の遊戯指導 巡静一著 日本文化科学社